

平成28年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成28年6月16日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 1 回 総合教育会議	
日時	平成 2 8 年 6 月 1 6 日 (木) 午後 5 時 0 0 分～8 時 0 0 分
場所	市役所西館 4 階 災害対策本部室
構成員	佐原 光一 市長、山西 正泰 教育長 朝倉 由美子 教育委員、高橋 豊彦 教育委員 芳賀 亜希子 教育委員、渡辺 嘉郎 教育委員
事務局	加藤 喜康 教育部長、駒木 正清 教育監 金子 尚央 教育部次長、守田 雅一 学校教育課長、 中田 浩次 教育政策課主幹、山本 誠二 教育政策課長補佐 ほか 全 1 1 名
その他	傍聴人 なし

議 事 日 程

市長あいさつ

協議事項

- 1 市内小中学校におけるいじめの現状と取り組みについて
- 2 市内小中学校における不登校児童生徒の現状と取り組みについて
- 3 今後の協議事項について

連絡事項

- ・次回開催日程

平成 2 8 年 8 月 2 5 日 (木) 午後 4 時から

(市長)

本日のテーマは、まず1点目が「小中学校のいじめの取り組み」の関係です。2点目が、「不登校」です。いじめ、不登校に関しましては、現場において大変重要な課題になっておりますので、この場でご意見をいただいきたいと思っております。

協議事項

1 いじめの現状と取り組みについて

■学校教育課長 協議事項について説明(別添資料)

(高橋委員)

資料1-1の小学校1年生から6年生の数字を見てきますと、小1と中3が顕著に少ない。小1は、なんとなく想像はつきますが、中3は、何か特徴的なことはあるのですか。

(学校教育課長)

中3というのは、入試についても部活についても、学校生活の中で大変目的がはっきりしています。取り組みがはっきりしていますので、そういうストレスのはけ口としていく前に、自分のことをしっかりやっつけていこうという意識が高いものですから、いじめにつながらないだろうと考えます。平成27年度の豊橋の状況ですが、平成26年度の全国の調査を見ましても、小1から小6は、ほとんど同じです。

(高橋委員)

1年生が少ないというのは、たまたまですか。

(学校教育課長)

小1対応支援員も、対応の効果かもしれません。

(高橋委員)

本市では、支援員もそうですし、少人数学級を1、2年生に導入ということと関係があると推察できます。

(学校教育課長)

中学校においては、全国のものを見ましても、中1が一番多いです。中1、中2、中3と下がっています。これは、全国的に生徒の精神的な発達もあるし、そういった学校生活を有意義に目的をもって取り組んでいることが理由になるかと思っております。

(高橋委員)

中1ギャップによるストレス、環境適応がうまくいかないということから、中1が多い。

(学校教育課長)

ここ数年間の本市の状態を調べましたが、意外と低学年は少ないです。そして、全国と同じように中3は少ない。先ほど言ったように、小1というのは、32を超えるところに小1対応として、支援の入り口を置くということです。

(高橋委員)

担任の先生との人間関係というキーワードが、小1とかでは身近な先生という表現のほうがいいでしょうね。身近な先生との人間関係がきちんとしているということと、どうも件数がリンクしていそうですね。

(学校教育課長)

そうですね。特に認知件数ですので、その部分をどうとらえたかという、本人が担任の先生に、自分がいじめられていると言えるような良好な人間関係が必要で、思いが伝えられるということが、このような数字があがってくることに繋がっていると思います。

(渡辺委員)

参考にですが、幼稚園、保育園には、いじめはあるのですか。幼保では、いじめは問題にならないですか。

(芳賀委員)

幼保では、基本的にいじめだと思ってやっていないと思います。ただ物を取られたから、怒れて押したとかそういう意味でという場合が多いと思います。

(市長)

みんなで、集団で一人の子をいじめるということは、ないですか。

(芳賀委員)

年長ぐらいになると、いじめの芽が出てくる。この子はこのままいくと、危ないかなと、年長ぐらいになると、少し気になってくるというふうに出てくるんです。

(高橋委員)

成長の段階によって、他者との認知関係が変わってくるというふうにとらえればいいですか。

(芳賀委員)

家庭環境のなかで、子ども自身にも思うところがありますよね。自分がかかえきれないものが、他者に当たるという感じで出ると思います。この子をどうにかしてやろうと、確かにありますよ。いい洋服を着ていてそれが気に入らないからとか、ちょっとした環境差によるものもあります。むしろ他者に当たり散らしてしまうことが、小学校に入ると、標的を作ってというところになっていってしまう。また、発達障害の場合は、空気を読めないとかでいじめられてしまう場合と、読み取れなくて暴言的に言ってしまう場合があります。年長とかには予備軍的な子どもはいるので、そうならないようにその子を受け止めているので、出ないということかもしれません。

(渡辺委員)

幼稚園、保育園からの情報は、連携されているのですか。

(教育長)

連携されています。個別の支援計画がきちんとされていますので、夏休み過ぎには、小学校の先生が保育園や幼稚園に聞き取りに行きます。

(渡辺委員)

気になっている子は、このようないじめの中に出てきている子ですか。

(教育長)

そこは、どういう数字で出ているかわかりません。

(渡辺委員)

連携しているわけですから、保育園、幼稚園で気になっていた子が、小学校にあがるといじめたりいじめられたりする場合が出てくる可能性がありますか。

(市長)

前芝保育園、小学校、中学校で調べれば、データがとりやすいかもしれませんね。

(渡辺委員)

そういうのがわかれば対処しやすいですよ。そういう関連性とかも調べておいたほうがいいかなと思います。

(市長)

いじめだけでなく、家庭内の暴力、ネグレクト等、就学前の情報をまとめているんですね。小学校に上がる時に、学校の先生が引き継ぐワークシートができていますね。

(渡辺委員)

いじめというのは、集団があれば生じることなので、なくすことは絶対できないだろうと思います。だからあるものだと思って、それに対して、対応していくべきだと思います。例えば、ここでいじめ件数であがってきた子どもたちは、それまで気になっていた子たちなのか、別の子なのか、それとも、同じ子ばかりなのか、どうですか。

(教育長)

様々ですね。それまで全く関係のなかった子が、突然いじめられたりすることもあります。だから、どこで起きてもおかしくない、だれがいじめられてもおかしくないという状況です。

(渡辺委員)

いじめられると、嫌だから恥ずかしくて言いたくないこともあると思います。いじめられた時に、言いやすい状況を作ることも大切だと思います。

(市長)

早い段階でいじめの状況をつかんで対処をしていくことが必要で、先生や専門のカウセリングに相談できるようにするといいです。人と違うことをするわけで、うまく発言できますかね。カミングアウトするということになりますが、どうしたらいいですかね。

(渡辺委員)

道徳教育とか思いやりの教育とか命の教育とか、そういったことをきちんとやっていく必要があると思います。また、学校というは、ともすると、みんなと同じでないといけない雰囲気を出してしまうので、みんな違ってみんないいんだよというように、みんな違うんだよという認識を持たせられるといいです。違うぐらいがいいんだよというぐらいに言

ったほうが、いじめを起しにくくなると思います。

(教育長)

学校は、だいぶ考え方を変えてきて、認知件数を見ていただいてもわかるように千件を超えているように、いじめの認知が教員のアンテナの高さだという発想に切り替わっています。かつては、暴力と同じように発生件数でとらえられていたので、いじめの発生として見ると、こんなにいじめがあるとなりますが、大事なのは解消率で、認知数は教員のアンテナの高さとしてとらえるようにシフトしています。いじめ0件の学校はひとつもなく、74校すべてがいじめを認知していることは、数年前と大きく違い、いじめに対する意識としてとてもいいことだと思っています。

(渡辺委員)

いじめられた子どもが、しっかり伝えられるように考えておくことが大切ですね。

(教育長)

かつては、いじめのアンケートには名前を書いて先生に出していましたが、今はいじめのアンケートは無記名でお願いしています。何をねらっているかという、担任が自分のクラスにいじめがあるかどうかと意識をするということです。子どもからの訴えでいじめを知っているのは、対応が遅れてしまうわけで、自分のクラスのいじめの実態をつかむためにアンケートを行うという流れになっています。

(市長)

どんなアンケートなんですか。

(学校教育課長)

嫌なことはありますかなどです。

(芳賀委員)

いじめを見聞きしたことがありますかというのも項目にありますよね。

(学校教育課長)

いじめを認知するために行うので、生活アンケートとして、最近学校は楽しいですかという質問項目から始まります。楽しければ何が楽しいですか、また楽しくなければ何が楽しくないですかというように両面で聞いていきます。

(高橋委員)

心理学的に、問い方の流れの手法を何か使っていることはあるんですか。市町独自で、こんな質問を入れたほうが良いと考えてやっているのですか。

(教育長)

アンケート項目は、文科省でひな形が出ています。

(市長)

いじめの対処の仕方とか、先生方に対する研修はありますか。

(教育長)

研修は、やっています。

(学校教育課)

文科省の中央研修で、いじめについての研修を受けてきて、校務主任や生徒指導主事、主任に伝達をして事例をもとにして説明をします。そして、各学校で伝えてもらって、生活サポート委員会など話し合い等で生かしてもらおうようにしています。どれだけ浸透させるかということをお大事にしています。

(市長)

先生方一人一人が、いじめに対応するための研修はあるのですか。

(教育長)

生活サポート主任がメインになっていきますが、初任者研修、3年目研修、5年目研修でもやっています。

いじめの早期発見の今後の取り組みについて、ハイパーQUを予算化していただき、小6中1で行っています。ある学校を学校訪問した時ですが、その学校で、5年生の時かなり荒れていて学年が、6年生になって一人増え、27人の3学級になったそうです。そうしたら、昨年度要支援群にかたまっていたハイパーQUの結果が、右上の学校生活満足群のところによくかたまる傾向に変容し校長が喜んでいました。人数が減るということで、学級の中の軋轢が取り除かれることにつながったようです。

(市長)

母集団が小さくなることの効果なのか、先生がみられる人数が減ったことのどちらが要因となるのでしょうか。

(高橋委員)

たぶん、後者でしょう。

(市長)

先生がみられる人数が減ると、なんでそんなに変わるのでしょうか。

(教育長)

両方の要因が考えられます。40人をみるのと、27人をみるのでは違いますし、子ども同士の関わりも変わってきます。

(市長)

効果を生んだのは、母集団が小さくなることなのか、先生がみてくれているという安心感なのかどちらでしょうか。以前、協議したことがあるんですが、少人数学級で指導するのか、一つの学級で加配して二人の先生でみるのと、どちらがいいのかと思ひまして。いじめについても、学習についても同じ議論が必要になると思ひます。

(高橋委員)

さきほどの件について、個人的には、私は後者だと思ひます。人数が少ないことで、子どもたちが、先生方が気にしてくれていると感じられるでしょう。これは、教員の多忙化の問題とリンクしていると思ひます。

(市長)

これは、仕組みのあり方によって、学習にもいじめにも通じることです。

(高橋委員)

全部、つながっていると感ずます。先日、ある学校の先生から、遅くまで残っている先生がいると聞きました。先生方は、様々なものを処理するのに時間がかかるということで、子どものことをみてあげられない、みてあげる時間がないという状況があるそうです。教員と子どもの時間がとれる方法を考えると、フレキシブルに動ける先生がいたほうが、当面学校はうまく回り出すのかなというイメージをもちました。なんでも任せられる先生がいると助かるということは、聞いたことがあります。

(渡辺委員)

先生が増えると、とてもいいと思います。以前、平安寮の話聞いたのですが、施設が新しくなった時に一人一人のスペースが広がったら、以前の荒れた様子から変わったそうです。このことから、スペースも影響すると思いました。教室とは違いますが、スペースの問題もあると思います。先生が多いのも必要でしょうが、一つの部屋にたくさんいれば、それだけストレスがあると思います。常に先生がみてくれているという安心感も、もちろん必要だと思います。

(市長)

小規模校の10人20人の学校と、吉田方や幸のような学校では、いじめのパターンの差はありますか。

(学校教育課長)

いじめでは、関連性がわかるような調査をしていませんので、はっきりしませんが、いじめの件数としては、小規模校のほうが少ないです。

(市長)

今の話は、つながっているのですね。

(朝倉委員)

各学校から認知件数が出ると思いますが、小規模校でも、だんだん増加していくような傾向は見られるのですか。

(学校教育課長)

少ないデータだと、あまり凸凹は出ません。これは豊橋市全体のデータなので、このような傾向として現れています。

(朝倉委員)

各学校の色があっていじめの多い傾向にある学校には、経験値の少ない教員は配置しないとか、ベテランを配置するとかというように、人的な配慮はあるのですか。また、解消率についての報告は資料にないですが、認知したとしたら、どのくらい解消できたのかということは、どのようになっていますか。

(学校教育課長)

アンケートについて、翌月に報告の中で、いじめが収まったのか続いているのかが出るようになっています。謝罪等済ませて解決し、経過観察をしているなどの状況になります。

(教育長)

千件という数ではありますが、ほとんど解消していくということです。

(高橋委員)

早期発見という体制ができているという理解でいいですね。

(市長)

同じ子がずっといじめられたり、同じ子がずっといじめたりということもありますか。

(学校教育課長)

先生方が情報を共有し、そうならないように学級についても配慮し、そういう子たちに目を配り、ある程度いじめとして上がる前に、対応していると思います。

(教育長)

そういう子たちが頼るところが、担任だけでなく臨床心理士がかなりあります。スクールカウンセラーに頼る場合もあるが、小学校は4校を一人が回るので、1か月に1回しか来ないんですね。中学校は、1つの学校に一人配置されているので、1週間に1回、月4回来ます。そう考えると、スクールカウンセラーの配置を国は2校に一人を目指していますが、なかなかそこまで進みません。名古屋が増やしているように、カウンセラーを一つの学校に配置できるようになればと思います。発達障害の子も頼っていくのはそこになります。いじめられた子もそこだし、不登校の子もそうです。カウンセラーの力は大きいと言えます。カウンセラーによって、いじめや不登校の悩みが解消できたという報告もあります。臨床心理士やスクールカウンセラーを増やす方向と、ハイパーQIの成果を見て調査する学年を増やす方向もありだと思えます。学校現場が一番ほしがっているのは、学校に配置して、色々なことを任せられる教員というのが本音のところですよ。

(高橋委員)

相談する複数の選択肢を用意することがあるのは、とてもいいですね。

(市長)

いじめについて心配するのが、親の介在ですが、対処は難しいですか。

(教育長)

難しいですね。法律に強い人間、弁護士を入れてもらい、学校にそういう保護者が来た時、横にいるだけで違います。保護者の対応が負担感になって、多忙感につながることを少しでも防ぐことができます。

(高橋委員)

給食の未納の問題など、積み重なると、あれもこれもやらないといけなくなるのが、学校には多いですよ。

(教育長)

結局そういうことが積み重なって、先生の意識が子どもから離れるといじめも起きてくるし、この後、提案がある不登校についても同じで、先生方の多忙化から出てくる部分があると思います。

(市長)

先生の多忙を防止するにはどうしたらいいか。何が一番多忙の原因なのでしょう。

(教育長)

今、県でプロジェクトチームを作って、冬には提案が出てくると思いますし、国から部活動のあり方という通知が近いうちに出ます。市としても、多忙化解消委員会に諮問して答申をあげるように出していますので、またここで話題にさせていただきます。

(市長)

仕組みを変えないと、向かっていく方向が分からなくなりますね。

(教育長)

この後の不登校についても、根っこになるのは、教員が子どもと向き合う時間というのが絶対にあると思います。

(市長)

そのために、学校のシステムがどうあるべきか、目標とするところを作っておかないといけませんね。

(芳賀委員)

いじめる子が、スクールカウンセラーと関わることはあるのですか。

(教育長)

あります。直接いじめたという事実があつて、担任から話す場合もあるし、スクールカウンセラーに教室に入ってもらい、様子を見て、その中で少し話をするのを促します。スクールカウンセラーは、そこはうまく対応してくれます。解決としては、チーム学校としての動きもあり、周りの人や地域の方の力を借りて進める場合があります。

(渡辺委員)

認知件数がありますが、どのぐらいのパーセンテージの子がいじめられていますか。いじめを経験してきた子どもは、どのぐらいなのか。

(教育長)

その数字は出ていません。

(学校教育課長)

6年生で調査をすれば6年間のもの、中3で調査すれば3年間のものは出ます。義務教育の中での状況を把握することは、必要ですね。

協議事項

2 不登校の現状と取り組みについて

■学校教育課長 協議事項について説明（別添資料）

（市長）

では、不登校について、説明をお願いします。

（渡辺委員）

不登校の数が出ていますが、不登校から改善された数はありますか。

（学校教育課長）

30日超えた場合に記載され、翌年に繰り越さないのので、個人で見えていくことになりません。

（市長）

登校できていない子が、週に1回来れるようになったとか改善された例はあるのですか。

（学校教育課長）

あります。教育長が校長先生をされているときは、牟呂小はゼロになりました。

（教育長）

ゼロにしました。

（渡辺委員）

何をやられたのですか。

（教育長）

休み始めの登校をしぶっている時点で動き出し、すぐカウンセラーを当てました。もう少し様子を見ましょうという間に子どもの状況は進行してしまいます。対応については、管理職の意識の問題もありますし、小中学校の動きも違いますし、難しさもあります。動きがあることで、全く状況は変わります。

（市長）

中学校では、悪い仲間の影響で学校に来れなくなる場合もありまよね。

（教育長）

豊橋では、不登校出現率1.5を1.4にするには、40人減らせればいいんです。40人減らすために中学校で一人減らし、小学校は2校で一人減らせば、標準の1.4になります。そのために、スクールカウンセラーの力は大きいです。事例を言うと、休みがちで、運動会後に2カ月休んでいた子をカウンセラーが見たてて、この子の休みはちょっと強く出れば何とかかなると言われました。父親が強引に連れてきて、4日後には皆出席です。力のあるカウンセラーはすごいと思いました。カウンセラーは、いくつもの症例を持っているので、そこから分かるということです。カウンセラーの配置の効果は、大きいです。

(高橋委員)

その事例は、保護者が「さあいくぞ」と自分に向き合ってくれたということだという事案ですね。

(市長)

両方とも、カウンセラーということに行きついていますね。

(教育長)

スクースカウンセラーはいますが、スクールソーシャルワーカーは少ないです。

(朝倉委員)

スクールカウンセラーの配置だけでも、進むといいですよ。

(市長)

やはり、不登校のパーセンテージは高いですね。

(朝倉委員)

時期的に不登校となっても、ずっとそうではないケースもあるのかなと思います。

(市長)

目標を持っている時には、出現率が低くなるどころがうまく使えるといいです。

(教育長)

学校の中で、子どもが意欲をもつような授業をつくることでいじめもなくなってくるし、未然防止にもつながるし、根っこはそこだと思います。いきつくところは、教員の多忙化ということです。

(市長)

LGBT が理由で、学校に来られない子はいますか。

(教育長)

今はないですが、出てくる可能性はありますね。親にも言えず、教員にも言えずにいる場合も考えられます。子どもが相談してきた場合に教員が対応するには、教員にゆとりが必要ですね。やはり、

(市長)

高校は、不登校についてどうですか。

(教育監)

義務教育との違いはあります。

(朝倉委員)

いじめや不登校について、どうしていくかの検討会にも先生方は加わらないといけないので、それが多忙化の一つの要因ですね。授業に没頭したいのに、資料をそろえないといけないとか、研修会に行かないといけないことを、もう少し軽減できるサポートがあれば、先生はもっと子どもと向き合えるし、本来の本業に集中できると思います。子どもの人数が少なければ、対応する数も減るかもしれないし、スクールカウンセラーをなんとかたくさん配置してもらおうといいです。

(市長)

解消するために、スクールカウンセラーやサポートティーチャーを置いたりするといいいですけど、やっぱり少人数学級っていいですかね。

(朝倉委員)

スクールカウンセラーが毎日来てくれればいいですけど、何週間に1回では、顔見知りになれなくて、その先生と話そうという気にもならないじゃないですかね。

(芳賀委員)

少人数は教室などハード面で難しいので、小1に目が向いていますけど、5、6年とかは救われる子もいると思います。担任とうまくいっていない場合に、だれかに認めてもらうことが大切で、人に余裕があることは大事かなと思います。スクールカウンセラーのように、教師ではない、成績をつけない人が必要な子もいると思います。

(高橋委員)

小学校の教科担任制にもリンクしますね。違う人がいるという点ではいいですね。

(渡辺委員)

生きる力を育てる授業はされているのですか。子どもたちの適応能力やコミュニケーション能力を育てていかないといけないと思います。人と関わらなくても生活できるようになってきていますが、そういう力をつける教育をしていかななくてはいけないと思います。

(教育長)

文科省で、アクティブラーニングと言われていますが、中野小学校に研究指定委嘱をかけて来年発表しますので、ぜひ足を運んでください。

(渡辺委員)

僕たちの子どもたちになかった問題を、今の先生方が抱えていて大きな部分を占めているので、それを改善していく方向でいかないと、先生の多忙化は解消されないということですね。

(市長)

学校は、事務処理や報告書をまとめる人がいたら、すごく効率的で時間に余裕ができるのですか。

(教育長)

難しいでしょうね。しかし、これで校務支援システムが入れば、ある程度は解消されるかもしれません。教育の多忙化を話題にのせていただけると、ありがたいです。

(市長)

先生方が子どもと向き合えるために何が必要か掘り下げてみたいと思います。これは、次につながると思います。もうひとつは、スクールカウンセラーなどサポートする体制はどんなものがあるか、予算を組むとしたら、コストとしてどのくらいを見込まなければいけないとか、皆さんの中で作戦をたてて、サンプルをもとにやっていただけたらと思います。

3 今後の協議事項について

■教育政策課主幹 協議事項について説明（別添資料）

（市長）

教員の多忙化と同時にポテンシャルアップですね。授業であったり、子どもとの関係であったりということです。貧困対策については、せっかく県が調べると言っているのに、その結果と合わせて、話し合っていないといけませんね。結果は年度末になってしまうかもしれませんね。どのような調査になりますか。

（主幹）

12月に調査票が配付され、小1、小5、中2を対象に抽出で行います。小1が保護者のみで、小5と中2は保護者と子どもの両方になります。3月に集計結果を公表するという事です。県内3万5千人で、全体の10%ぐらいです。

4 「豊橋市いじめ防止基本方針」の策定について

■教育長 報告資料について説明（別添資料）

連絡事項

- ・次回開催日程

平成28年8月25日（木）16：00～